

[1228/4D-115-002]

Ver.19

4.内分泌学的検査 >> 4D.副腎皮質ホルモンおよび結合蛋白>>4D115 アルドステロン(ALD) [CLEIA]

アルドステロン(ALD)

[CLEIA]

aldosterone

連絡先 3764

患者同意について

検査結果に影響を与える臨床情報

オーダーボタン名(検体)

1228

001

アルドステロン[CLEIA]

検査予約

至急オーダー

不可

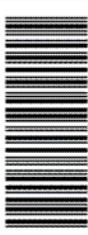
検査オーダーに関する注意事項

患者の検査前準備

検体採取のタイミング

ビオチンを投与・摂取している患者(5mg/日以上)の場合は、投与後少なくとも8時間以上経過してから採血を実施してください。

ラベル見本(検体)(単項目オーダー時)

キョウダイテスト	
注	80 外
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
セカ2.	
	
血液	*_*_*_*_*_-90004
中検外2	**_*_*_*_*_*_*_*_*
C6	6ml

ラベル見本(細菌)(単項目オーダー時)

採取容器・検査材料

[1228/4D-115-002]

Ver.19

4.内分泌学的検査 >> 4D.副腎皮質ホルモンおよび結合蛋白>>4D115 アルドステロン(ALD) [CLEIA]

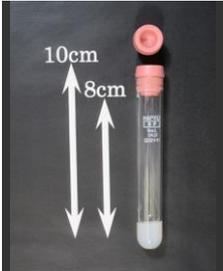
アルドステロン(ALD)

[CLEIA]

aldosterone

連絡先 3764

01	C6	凝固促進剤 + 血清分離剤(ピンク)	
採取材料	血液	採取量	6 mL
遠心分離		遠心	
測定材料	血清	測定必要量	0.5 mL



採取容器について

検体採取について

血清も可

採取後検体の取扱い

検体搬送について

採取検体の保存条件

	保存検体種	優先 保存条件	保存条件1		保存条件2		保存条件3	
			温度	安定性	温度	安定性	温度	安定性
01	血清	保存条件1	凍結					

受入不可基準

溶血	検体凝固	強乳び	採取量過不足	採取容器違い
尿材料違い	冷蔵保存なし	遮光保存なし	開栓	黄疸

検査に要する時間(生理検査)

再検査・追加検査の対応可能日数

検体到着日から60日間 (検体量ある場合のみ)

(分析物の安定性については「採取検体の保存条件」を参照)

検体採取に関する注意事項・検査の実施に関する注意事項

[1228/4D-115-002]

Ver.19

4.内分泌学的検査 >> 4D.副腎皮質ホルモンおよび結合蛋白>>4D115 アルドステロン(ALD) [CLEIA]

アルドステロン(ALD)

[CLEIA]

aldosterone

連絡先 3764

検査機器	
------	--------

検査所要日数	2～3日
--------	------

検査部門・委託先	外部委託 (LSIメディエンス)
----------	------------------

検査部門(平日時間内)	
-------------	--

検査部門(時間外・休日)	
--------------	--

検査結果報告について

基準値設定材料・検査方法

基準値設定材料	血液
検査方法	化学発光酵素免疫測定法 (CLEIA)(LC-MS/MS法相当値)

生物学的基準範囲

		男性	女性	単位
00	アルドステロン(ALD)	4.0 - 82.1	4.0 - 82.1	pg/mL

基準値情報

緊急異常値

電話連絡対応

臨床的意義

 アルドステロンは副腎皮質球状層から分泌される主要なミネラルコルチコイドで、腎の遠位尿細管に作用してナトリウムの再吸収とカリウムを分泌させ、細胞外液量やその電解質濃度を正常に保つ働きをする。したがってアルドステロン分泌過剰状態では代謝性アルカローシス、欠乏状態では代謝性アシドーシスをきたす。

 アルドステロンの分泌は、主にレニン・アンジオテンシン・アルドステロン系を介して行われ、腎血流量や腎内圧の低下などのレニン分泌刺激が起こると腎のJG細胞よりレニンが血中に遊離し、アンジオテンシンⅠ、続いてアンジオテンシンⅡが生成される。これが血圧の昇圧系に作用するが、他方では副腎皮質を刺激してアルドステロンの分泌が促進され、レニン分泌に抑制的に作用して調節されている。

 アルドステロンの血中濃度を測定する場合は、立位では腎血流量の変化により臥位に比べて高値を示し、また低ナトリウム食や利尿剤投与で上昇し、高ナトリウム食やACE阻害剤で低値となるので採血条件に注意する。

[1228/4D-115-002]

Ver.19

4.内分泌学的検査 >> 4D.副腎皮質ホルモンおよび結合蛋白>>4D115 アルドステロン(ALD) [CLEIA]

アルドステロン(ALD)

[CLEIA]

aldosterone

連絡先 3764

異常値を示す病態・疾患

高値を示す病態
 [レニン活性(濃度)高値] 続発性アルドステロン症
 [レニン活性(濃度)低値] 原発性・特発性アルドステロン症
 低値を示す病態
 [レニン活性(濃度)高値] アジソン病, NA喪失型21-ヒドロキシラーゼ欠損症
 [レニン活性(濃度)低値] 低レニン性低アルドステロン症, 11 β または17 α -ヒドロキシラーゼ欠損症

参考文献

佐藤文俊ほか. 2. 原発性アルドステロン症の適切な診断と治療のために. 日本内科学会雑誌. 2014, vol. 1

LSIメディエンス 検査要項

Nishikawa, Tetsuo <i>et al.</i>. Calibration and evaluation of routine methods by serum certifi

JLAC10

分析物	4D115	アルドステロン(ALD)
識別	0000	
材料	023	血清
測定法	052	化学・生物発光イムノアッセイ (CLEIA)

変更履歴

Ver	文書更新日	変更適用日	内容
1	2008/04/01	2008/04/01～	制定
2	2014/03/28	2014/04/01～	委託先会社名変更(三菱化学メディエンス⇒LSIメディエンス)
3	2015/04/24	2015/04/01～	外部委託先変更(LSIM⇒BML), 基準値変更
4	2016/04/25	2016/04/01～	平成28年度診療報酬改定
5	2017/03/21	2017/02/23～	検体ラベル表記変更[O]⇒[]
6	2017/04/21	2017/03/10～	最低採取量・容器変更([2mL]⇒[3mL])
7	2018/04/06	2018/04/01～	平成30年度診療報酬改定

[1228/4D-115-002]

Ver.19

4.内分泌学的検査 >> 4D.副腎皮質ホルモンおよび結合蛋白>>4D115 アルドステロン(ALD) [CLEIA]

アルドステロン(ALD)

[CLEIA]

aldosterone

連絡先 3764

8	2019/04/30	2019/04/01～	外注業者変更([BML]⇒[LSIM]), 基準範囲変更
9	2020/04/02	2020/04/01～	令和2年度診療報酬改定
10	2020/10/22	2020/10/22～	ビオチン干渉項目として指定
11	2020/12/16	2020/12/17～	採血容器変更
12	2021/05/10	2021/03/01～	項目コード・検査方法・基準値変更
13	2021/08/02	2021/05/27～	採血容器変更
14	2022/03/09	2021/12/09～	採取名称部分に検体搬送先を印字
15	2022/06/13	2021/02/01～	検査方法・基準値変更, PAC/PRA・PAC/PRCの計算を開始
16	2022/08/01	2022/04/01～	令和4年度診療報酬改定
17	2022/12/01	2022/12/01～	受入不可基準などについて全面改訂
18	2023/12/21	2023/12/21～	必要検体量を追記
19	2024/06/04	2024/06/01～	令和6年度診療報酬改定